

名湖

の隅にある大湖也猪苗代の湖は陸奥國若松の東笹山近き所也共に近江に續ての大湖也

〔八雲御抄五名所〕海
あふみの海近千鳥 夕波にほの同、にほの信、みほの水山、水海、已よこ同、ちくまの同、あしりのたか島、

湖也○ふせの同、越中、万、水、すはの氷上、渡、水海、

〔藻鹽草五水邊〕海 同名所

伊香海近江、みる、濱名海とほたうみ、むす、鳥羽淡海常陸、白、足利海近江、たかしまのあし

ゆらしが浦今かこ、蘆海相州、かきめぐみ、を神にまかせてあしのみ、志賀海近江、比良海右同、ま、玉

遠江國濱名湖

〔東海道名所圖會三〕濱名湖 濱名は郡名也國號遠江も此湖水に基也一名猪鼻湖、又は遠湖とも

いふ、和名抄に、近江を知加津阿不美、又淡海とも書す、故に遠江をとほつあふみと對する也、契沖

の代匠記にも、ちかつあふみ、とほ津うみの事具にみへたり、又近きとし、蝶夢幻阿彌が遠津湖記

にも、ろこしの西湖といふ所のさま、繪にうつせしを、今思ひあはすに、孤山といふ所に露たがは

す、此水うみのほとりの第一の景地ならし、おほよそ湖の廣さ、北に入事五里にあまり、東西四里

にすぐ、南はひたぶるの大海也、山々三方にならび立りと云々、

〔遠江國風土記傳一濱名郡〕新井中略

荒之崎中略
寶永四年、關司政愈書曰、中明應八年六月十日甚雨大風、潮海與湖水之間驛路沒、日箇崎千戶

水沒

○按ズルニ、富士歴覽記ヲ檢スルニ、八年六月飛鳥井雅康遠江ニ在リ、其記事絶テ風雨ノコト

ニ及バズ、而シテ七年八月二十五日ニ地震風雨アリシコト諸書之ヲ記ス、八年六月ハ、恐ラク

七年八月ノ誤ナルベシ、